

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	503C	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.510	△RG	0.057	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：503C

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

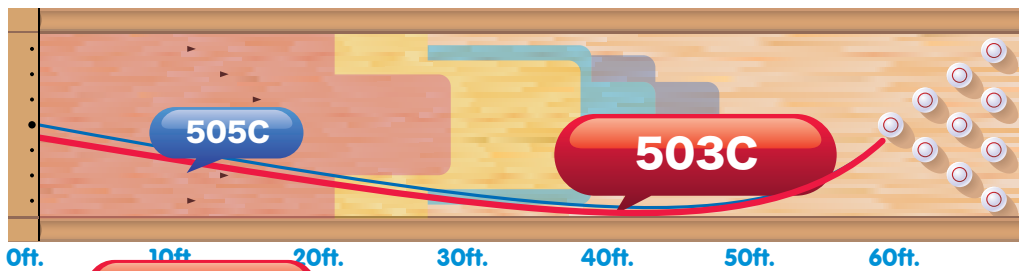
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対照ボール：505C

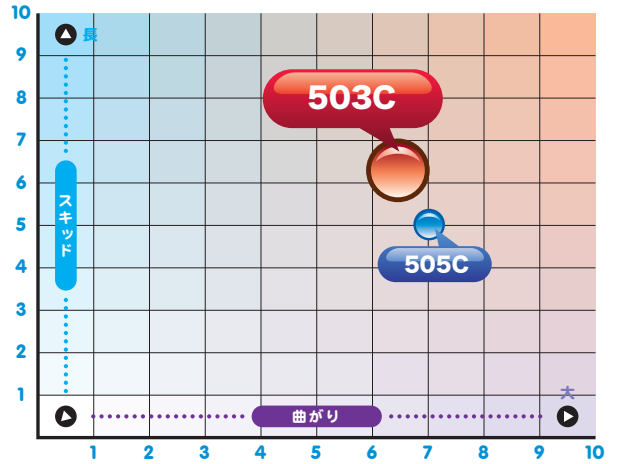
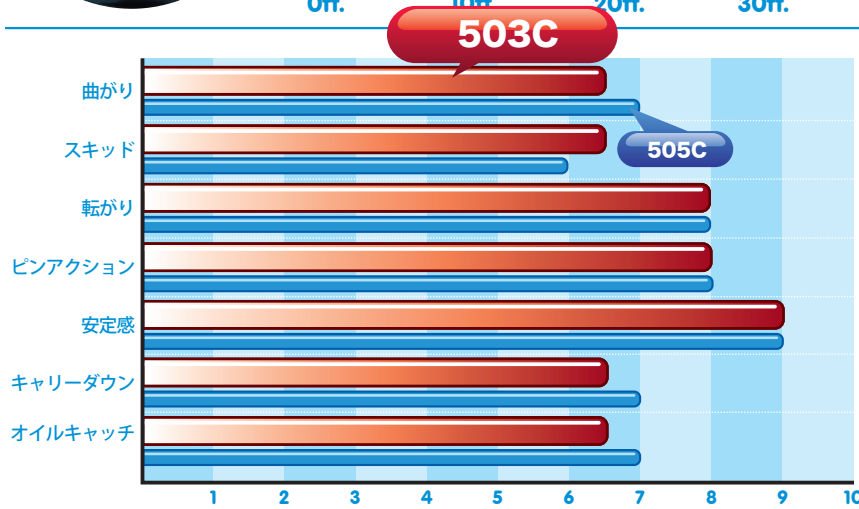
フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



レーンコンディション: Light Oil, Light to Medium, Medium Oil, Medium to Heavy, Heavy Oil

バックエンドリアクション: Smooth, Smooth to Arc, Arc, Arc to Sharp, Sharp Angle

レンジス: Early Roll, Early to Med, Med-Lane, Med to Late, Late Roll

ボールの評価

前作のオリジナルの505Cは、スキッド能力からオイルキャッチすべてにおいてバランスの取れたパフォーマンスと”C”の名称でもあるコントロール性能の組み合わせで、多くの人に愛され、数多くの実績を残した、”ナンバーシリーズ”を世に認知させたボールと言っても過言ではありません。またトラック社は”5”シリーズで中心的役割を果たしてきたシャトルコアからPacmanコアへとこの503Cから展開し、新たな”C”シリーズへと移行しています。

トラック社が今回この503Cから求めた特筆すべき事項は、”Continuous Control”と言えるでしょう。今までトラック社が標準としていたコントロール性能をさらに「コントロールの持続性を高めること」。そのためにキャッチ力の大半を担うカバーストックにMP GEN 4Cカバーストックを採用し、持続性の強化を図っています。

私が投球したイメージは、まず505Cよりもやや走るイメージを感じたこと。”5”のシリーズの中でもややキャッチは抑えられている感があり、505Cよりもボール2つ分ぐらいスキッドを得られました。しかし曲がり始めてからピンヒットまでのグリップ力と軌跡は非常に安定しており、ポケットまでの角度調整も読みやすいボールに仕上がっています。

前作の505Cよりもスキッドを感じる為、対応コンディションはミディアムライトが中心で使用して頂けますが、スキッドを感じる分ドライゾーンでの反応も強く傾向も見られ、505Cよりも外に向けて戻すラインを選択できるものこの503Cの良い部分でしょう。用途として#4000アブラロンで軽く加工し505Cのような使い方をするか、箱出しのままやや走る”5”シリーズでお使いになるか、ご自分のタイプに合わせてチョイスしてください。

特記事項

Continuous Control(持続的なコントロール)を打ち出したNew Asymmetrical Pacmanコア搭載の503C。 ”5”シリーズ発売をお待ちになった方、是非503Cの性能お試しください。